

2012年度受託研究概要報告

農村景観を活用した西区の魅力づくり事業

研究メンバー

川北健雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
山之内誠	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
不破正仁	デザイン学部環境・建築デザイン学科助手

委託者

神戸市産業振興局農政部農業振興センター

研究概要

本研究の対象地は、西区神出町東地区（以下「神出東地区」という）である。この地区の農村景観の特性を把握し、その活用につながる様々な可能性を提示する。得られた知見をもとにした諸活動が神出東地区の活性化につながり、西区民をはじめとした様々な人々に対して西区の農業の魅力情報を発信へと展開されることを意図している。

今年度行った調査と提案は、下記の通りである。

- (1) 神出東地区の現状・問題点等の把握調査
  - 資料収集や集落代表者などからの聞き取り調査や現地調査を行った。
- (2) 農村景観の魅力再発見と活用の提案
  - 神出東地区の農村景観の魅力を次の4つの視点から分析し、それらの活用の可能性を指摘した。
  - ① 視覚的な美しさ
  - ② 農村部ならではの独自性
  - ③ 農業生産との連携
  - ④ 地域活性化への寄与

研究成果

2012年5月に現地を訪れ、地域の方々にお話しをうかがいながら地区内を歩き回り、地域の概要を把握した。その後、2012年6月に地域資源に関する予備調査を行い、神出東地区の農村景観を特徴づける構成要素の拾い上げを行った。その結果、民家の構成、祠の配置、樹木の配置、水系等を、主要な景観構成要素として抽出することができた。2012年11月には受託先と事業全般に関する打ち合わせを行い、それを受けて2013年2月～3月に予備調査で抽出した項目に絞った現地調査を実施した。調査結果の整理に加えて、これらの景観資源を活用した地域整備の進め方についても提案をとりまとめ、2013年3月に地区内の公会堂にて報告会を実施した。

神出東地区では、すでに里づくり協議会において様々な農業体験企画等が活発に実施されてきている。しかしながら、今回の現地調査を通して、人々が日常を過ごしている民家や周辺の景観要素については、地元の人々は必ずしもその価値を十分に認識してはもらえないことが分かった。そこで、地元の方々を対象とした調査報告会においては、特にこの地域に多く残る民家構成の特徴と周囲の農村景観要素の価値をわかりやすく説明することに重点を置いた。また、今後の活動として、集落探訪企画に結びつけた景観資源マップの制作、集落内の民家の見学会や掃除イベントの実施、現在あまり利用されていない納屋や蔵、空屋の活用、などを提案した。

